

五尺屏風四帖料略○中 紫綾五丈六尺中略○薄紙五十六張綠

〔類聚雜要抄四〕五尺屏風十二帖略○中

綠軟錦一丈三尺五寸十二破定糸用途尺制一兩織料能米一斗買直ニハ尺別十五疋

〔大内裏圖考證別錄下〕屏風緣 福富草子夢合緣赤同、一圖緣白、小緣赤、醍醐松橋坊、錢形十二天屏

風有小緣大緣等山水畫無小同水元坊、絲番十二天屏風有小緣大緣等山水畫無小

〔半日閑話二編〕一壹寸八步古法の者七ツ略○中

屏風緣略○中 右中院通茂卿の御話之由

〔禁秘御抄上〕一清涼殿略○中 朝餉屏

二間南平敷二枚北東北立屏風風。絹。屏。

〔空穂物語菊の宴〕きさいの宮賀、正月廿七日にいでくる略○中 御てうどの、てうどまろ、かねてつき

つ略○中 からあやの御びやうぶ、みきちやうのほね、すわうま、たんなつ冬ありがたし、

〔紫式部日記〕ひんがしのたいのにしひさしは、上達部の座、北をかみにて、二行に南のひさしに、

殿上人の座は、にしを上なり、まろきあやの御びやうぶどもを、もやのみすにそへて、とざまにた

てわたしたり、

〔榮花物語初花〕五日の夜は、殿の御うぶやまなひさせ給、十五夜○寛弘五年九月の月くもりなく、秋深

き露のひかりに、めでたきおりなり、上達部殿上人まいりたり、東のたいに西むきに、北をかみに

てつき給へり、南のひさしに北むきに、殿上人の座は、にしをかみなり、まろきあやの御屏風をも

やのみすにそへてたてわたしたり、

〔玉海〕治承二年十一月十四日癸酉、此日中宮御産第三夜也略○中 寢殿西北廊東第二間以西、六ヶ間

敷満長筵無差筵鎮子等副北障子不懸簾件障子絹障子也、立亘白綾四尺屏風如例茜絹也番